

えっとぶり

No. 15 2007年 夏の号

徳島県青年海外協力協会会報
徳島県協力隊を育てる会会報

How are you after a long time ?

「えっとぶり」とは、阿波弁で「久しぶり、元気ですか?」という意味です。

E T T O B U R I



Bolivarian

Republic of

Venezuela



笹川斉宏隊員 二頁「えっとぶり」シリーズ⑫ 近況報告

中央アジアの青年を徳島に迎えて

徳島県青年海外協力協会 理事
徳島県協力隊を育てる会 事務局長

常見 裕之

平成19年2月13日から20日にかけて、徳島県青年海外協力協会として、JICAの青年招へい事業を受け、中央アジア5カ国（カザフスタン、キルギス共和国、タジキスタン、トルクメニスタン、ウズベキスタン）の青年24名の研修および交流のプログラムを担当させて頂きました。教育分野の青年であり、特に職業訓練の学校の先生が多く、徳島県立総合教育センター、農業大学校、阿南テクノスクール、徳島県庁などを視察させて頂き、視察先の皆様には、大変お世話になりました。徳島県民のみならず中央アジア青年との交流を図るホームステイもあり、ホストファミリーをみつけるにあたっては、徳島県文化国際課、徳島県国際交流協会、吉野川市国際交流協会の方々をはじめ、徳島県協力隊を育てる会の会員のみならず、そして青年海外協力隊のOVのみならずにご協力いただきましたこと、大変心強かったです。ありがとうございました。今回の研修・交流の様々な場面でご協力くださった徳島の皆様方のご配慮、心遣い、やさしさのおかげで、帰国前に大阪のJICAセンターで開かれた評価会でも、徳島のプログラムは大変高い評価を受け、青年たちの満足度も非常に高いものでした。感謝いた

します。

さて、中央アジアといいますと、日本では、なかなかなじみがなく、旧ロシアのイスラム教徒の皆さんということ、どのような青年たちなのだろうと思っておりましたが、いざ一緒に1週間を過ごしてみますと（国によって、個人によっても、いろいろではありますが）、見た感じが日本人に近い青年たちも多く、DNAに共通の部分がたくさんあるように感じられました。純朴な青年が多く、また熱心で、積極的で、前向きな考え方の青年たちにエネルギーをもらい、何よりも、言葉の壁はあっても、日々、過ごすうちに、しだいに心が通じ合えたことがうれしかったです。

ホストファミリーの皆さんとも、温かい時間を過ごされたことが、青年たちの言葉や表情からわかりましたし、歓送会では、涙でお別れのシーンもありました。母国以外に日本にもお父さんお母さんができてうれしいとの青年の感謝のスピーチには感激しました。

中央アジアの24名の青年たちと共にプログラムを進める中、感動する気持ちや好奇心の大切さを思い出させてもらいました。心の洗濯をもらったような感じもしており、青年たちには、感謝の気持ちでいっぱいです。そして、このようなすばらしい機会を与えてくださった関係者のみなさまに、深く感謝いたします。ありがとうございました。

えっとぶり! No.12

ベネズエラで活動中です。

◆H17年度3次隊

◇ベネズエラ・ボリバル共和国 環境教育 笹川 斉宏

オラ!

日本を離れて早一年。地球の裏側、ベネズエラで活動中の笹川です。

ラテン文化と広大な自然に日々翻弄・圧倒されつつも、元気になっています。

職種は環境教育で、現在はゴミと森林保全に対する地域住民の意識の向上に関して微力ながらお手伝いしております。

活動も折り返し地点となり、残り一年、何らかの成果を残せるよう、活動も生活も精一杯楽しみたいと思っています。

来春、徳島でお会いする日を楽しみにしています。では、チャオ!

マイシャ マタム

◆平成16年度2次隊

◇タンザニア 薬剤師

藤井 亜世

あなたの人生(マイシャ)は甘くておいしい(マタム)ですか?こんな質問を投げかけられたら、あなたはどうか答えるだろう。おそらくほとんどの日本人は答えに詰まってしまうのではないだろうか?

3年前、ドキドキしながら開けた協力隊合格通知にあった「派遣国:タンザニア」の文字。「タンザニアってどこ?」それが私とタンザニアが出会った瞬間であった。タンザニアとは東アフリカに位置する世界最貧国の一つである。

あれから月日は流れ、今2年ぶりの日本にいる。帰国していろんな人に聞かれることだが、派遣前の私と今の私、一体何が変わったのだろうか?日本では起こり得ない様々な困難を乗り越え、少しは精神的に強くなったかもしれないし、油分・糖分たっぷりのタンザニア料理を頂いて、外見や体脂肪率も変



化したかもしれない。その中でも一番変わったのは、幸せを感じる尺度だと思っている。タンザニアではいつもどこかで人の笑い声や歌声が聞こえてくるし、子供たちは自由に外を駆け回り、水や電気が止まっても何事もないかのように平然と生活している。そんなタンザニアから物があることの幸せや人と会話することの幸せ、生きることの幸せをもらった。2年前の私では感じることでできなかった幸せたちである。どこかの記事に載っていたのだが、タンザニアは最貧国であるが、国民の9割が「日常の生活に満足し幸福」と感じているらしい。そのことは「マイシャ マタム」と人生の味を言い合う挨拶が証明しているだろうし、2年間の協力隊活動を通して実感することができた。

日本では電気や水が止まることは皆無だし、その辺に物が溢れかえっている。その中でどれだけの人が幸福を感じながら生活しているのだろうか?今、もう一度自分の人生やこの恵まれた環境について考え直さなければと思う。

皆さん、マイシャ マタムですか?

「協力隊活動を終え・・・」

◆平成16年度2次隊

◇チリ 歯科衛生士

矢本 貴子

昨年の12月、小雨の夜に2年間のチリでの活動を無事終了し戻って来ました。到着しても帰国の疲れか、それとも時差ボケのせいかわはぼんやりした状



態でした。ふらふらと久しぶりに聞く日本語を聞き流し、ホテルに向かう為空港からバスに乗り込み、私は運転手の近くに座ることが出来ました。日本は師走、人々は駆け足でバスに乗り込み、無言で下車。運転手さんも頻りにため息ばかり。その時、日本に帰って来たというのに無性に不安でチリの事を思い出していました。

南米チリの12月は夏真っ只中、日が暮れるのも夜9時を過ぎる頃その為子供たちは夜中11時ぐらいまでは外で遊んでいます。

私が活動していた配属先は首都サンティアゴからバスで南に6時間ぐらい下ったサン・ニコラスとい

写真展を開きました

平成15年度1次隊 サモア 建築設備 太田 光俊

■みなさま、えっとぶりで。

今は、フィリピン海に浮かんで一週間になります。

昨日はひどい船酔いで、のた打ち回っていましたが、今は気分もよくなり“えっとぶり”に記事を書くことにしました。

私は現在、協力隊時に出会ったヨットマンと地球一周に挑戦中なのです。そしてそのヨットの旅の写真展を2月にふれあい健康館で開催しました。今回は皆さんにその報告とお礼をかねてこの記事を書いています。

■写真展は「世界の空と海と小学校」というタイトルで始まりました。私の初めての写真展です。

内容は、訪問した学校で描いてもらった絵の展示、それと旅の様子を写真に取めたドキュメンタリー写真展でした。テーマは空・海・小学校の三つ。空=ヨット訪問地の上空からの写真、海=ヨットで訪れた旅風景、小学校=訪問国での小学生の絵。

展示会に来てくれた人は、島国の写真に感動した人、小学生の絵に関心を持った人、様々でしたが、共通の意見は「どうしてこの写真展、一日しかしないの?」と言うことでした。私にとっては、うれしいことでした。

旅の途中、訪れた数々の島で協力隊と偶然出会いました。フィジー、パヌアツ、ミクロネシアの協力隊でした。ほんと協力隊って世界中で活躍していますね。

■今回の展示会で、私のやっていることに対してたくさんの人から支持があったことにびっくりしています。ヨットで地球一周への挑戦は、現実には衣食住すべて人生で一番つらい日々です。しかも金銭的にも一文にもならず、懸念もあります。しかし、今回の写真展で多くの人に支持してもらえたことが励みになりました。とてもうれしかったです。最終的にはこれを形にして完成させたいという目標があります。それを JICA の出前講座で活躍させたいと私



は考えています。

■今回の写真展で思ったのですが、どんな人でも、自分を活かせる場所があると思いました。「バカとハサミは使しよう」私のようなバカでも、使いようによっては大変役に立つことがあることを知りました。しかも、たくさんの人から協力をもらいました。手伝ってくれた方ありがとうございました。また、徳島協力隊を育てる会と、徳島協力隊 OB 会の支援もあり、大変ありがとうございました。この写真展は私がヨットで旅をしている限り続けて第2、第3と開催するつもりです。今後もよろしくお願いします。

好評の「ふるさと便」発送

今年も「ふるさと便」を発送しました。今回の担当は有馬会長です。中身については写真をご覧ください。世界各地で活躍中の隊員から感謝の手紙・メールが届いております。1つだけ紹介しますね。

『徳島 OB/OG の皆様お久しぶりです。16年度3次隊(タイ)の大蔭です。昨日タイ事務所にてゆうパックを受け取りました。』



なんともツボを心得た内容に、思わず笑みがこぼれました。毎年、ありがとうございます。任期も残すところ僅かとなりましたが、この時期に事故や病気になる隊員も多いので十分注意して、元気な姿で帰国したいと思います。』

大蔭隊員の笑顔がそこに見えるようです。「ふるさと便」は徳島県 OB/OG 会独自の取り組みです。そして歴史もあります。これからも継続したいですね。

徳島県青年海外協力協会・
徳島県協力隊を育てる会会報『えっとぶり』

平成19年「夏の号」(第15報)
発行日:平成19年5月

えっとぶり

- ◆企画 … 徳島県青年海外協力協会
有馬 麻紀
- ◆発行 … 徳島県協力隊を育てる会
常見 裕之 (yumegakusha@nifty.com)
- ◆編集 … 内原 大 (dai7@star.quolia.com)
- ◆印刷 … 多田印刷株式会社(吉野川市鴨島町鴨島 657番地10)